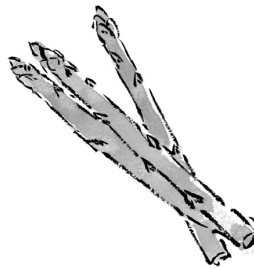


農業



令和6年6月号
会誌 No. 1717

目次

巻頭言

魅力ある農業大学校を目指して……………大杉 立 3

論壇

生消連携を地域に……………安倍 澄子 4

総裁現地視察

総裁秋篠宮皇嗣殿下

石川県の令和6年能登半島地震被災農家をご訪問……………吉田 岳志 6

農業懇話会

「やさいバス」が目指す農業の流通改革と農を軸とした
地域コミュニティーの強化……………加藤百合子 9

地域セミナー 栃木

食料安全保障と日本農業の責務……………盛田 清秀 26
—21世紀は地球規模の食料逼迫の時代—

食を楽しむ

味の記憶……………竹内早希子 37

研究の最前線

赤色ネットでネギやキャベツの難防除害虫ネギアザミウマを防除…徳丸 晋虫 38

農業・農村の現場から

周年栽培と実需者ニーズへの対応で高収益を上げる
コショウラン生産……………藤原 太羅 45
—滋賀県東近江市有限会社花匠の取り組み—

世界の農業は今

多様でしたたかな米国農業……………山田 優 50
—40年の現地取材を振り返る—

私の経営と志

愛知県新城市作手地域で施設トマト栽培……………梅津 光陽 56
—工業高校卒が始める農業—

農家の気持ち

テロワールまで、あと牛歩……………藤田 春恵 58

統計情報

2023（令和5）年大豆（乾燥子実）の収穫量…………… 59

農政情報

…………… 60

大日本農会だより…………… 61

編集部から…………… 62

会誌『農業』に関するアンケート

表紙写真：シリーズ日本農業遺産

首都近郊に息づく天水利用の農業システム（埼玉県比企丘陵地域）

関東平野を流れる「荒川」の右岸、秩父の山々から東へ半島状に伸びる比企丘陵地域（熊谷市、東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、吉見町、寄居町）では、その特徴的な地形を生かして築かれた大小350を超えるため池（谷津沼）を水源として、古来、米づくりを中心に少量多品目の生産を特徴とする農業が営まれています。

谷津筋ごとに築かれた谷津沼とその下流に広がる谷津田。これらを取り囲む斜面の林や畑。地理的に河川から水を引くことが難しく、古墳時代から約千年の歳月をかけて整備された「ため池かんがい」を基盤とする天水利用の農業システムは、「沼下」と呼ばれる谷津ごとの地縁組織によって今日まで大切に継承され、2023年1月、日本農業遺産に認定されました。

都心から約1時間。比企丘陵地域は天水を水源としてきたことで貴重な生態系を維持し、多様な生きものの生息空間となっています。特に中央に位置する「国営武蔵丘陵森林公園」（1974年開園、304ha）は関東一ため池の多い、当地域のタイムカプセル的存在。毎年秋に開催される「沼まつり」ではため池を守る伝統行事が再現されます。

（写真および文：埼玉県比企丘陵地域農業遺産推進協議会事務局 木村 俊彦）